

發行所 常盤毎日新聞社  
印刷所 常盤毎日新聞社  
川崎文治



刊夕日七月七

定部金貳錢 廣五錢十二休  
郵税五厘 料告字請一行刊日  
日祝日ノ聖 印刷所 常盤毎日新聞社

(可認物便郵種三第)

(號九十七百四第)

聞新日每警常

(日曜水)

日八月七年四十正大

(四)

常盤文藝

煙草屋の娘

宵の夢生

美恵ちやんほんといよい娘  
朝から晩までお店番  
お嫁にきまつたうれしさを  
誰にも知らせず我が胸に  
秘めつゝその日を待ちわび  
つ  
晴着縫ひ縫ひお店番  
軒のつばめはもうちぎに  
美恵ちやんお嫁に行くこと  
を知つてゐるのかピィ〜と  
別れが辛いと泣いてゐる

貸 柳町金拾二圓

家 白銀町金十圓

貸地 舊城跡本丸・二丸

賣地 五丁目表通り

加藤營業所  
平白銀町電話三三二番

五大特價

「買よき店、良品を安く  
賣る店、其れは三井呉服店  
です」  
夏物豊富に揃へました  
一、流行小形リンネット  
二、珍柄モスリン着尺各種  
三、蚊帳の見切品大廉賣  
四、小供洋服大々的割引  
五、吉凶御引物多数  
三井呉服店  
平町三丁目電話三十八番

用粧化★  
驗石ニクカ  
錢十個變  
平町四丁目  
ツルヤ  
電話百四十

社會業製治明  
店理代  
ヤトモツマ

ニリスモ尺着柄新  
帶單多博  
店服吳屋田龜

常盤論壇  
既成政黨は  
改造の要あり  
政界通人

(一)  
普選法は制定せられたが政  
界の實狀は依然として行詰  
つてをる、近頃政黨の態度  
は果して何うか、政府の與  
黨は普選法を以て劃時代的  
法律と云つたが其の普選が  
制定せられても、政黨自身  
は何等劃時代的變化を見て  
ゐぬやうである、單に政黨  
の狀態に於て然るのみなら  
ず肝心の精神に於ても依然  
として所謂既成政黨そのま

の精神でやつてゐるやう  
である、成程彼等は口では  
如何にも劃時代的のことを  
いひ宛も生れ變つたかの如  
く説いてをる、政友會の如  
きは僅々一ヶ年餘の間に可  
成り大なる動搖を來し其都  
度生れ變つたやうに言はれ  
政黨主義の理想に向つて邁  
進するかの如くに唱へてゐ  
たものであるが最近の態度  
は果して何を語つてゐるか  
即ち一方に於ては憲政會と  
の協調を必要とするといふ  
かと思へば他方に於ては政  
友會の黨是はより大切であ  
るといふてをる、  
而してその黨是なるものは  
所謂積極政策であることは

一冊の代金で  
御希望通りな  
五冊の雑誌が  
自由に讀める  
平町長橋町三五  
川崎回文庫  
(申込次第規則書進呈)

齒科  
平町土橋通り  
原齒科醫院  
電話卅一番

御定食  
錢十五前人一御  
御香焼吸さ  
飯の物肴物し  
料理一品  
まっや  
うごん。そば。天井。  
親子丼。五もく。其他。  
平町長橋町

金物類大賣出し  
御家庭用品  
越後三條打及物類  
なべ、かま、鐵びん  
やかん、銅器一式  
學生方用ナイフ  
料理屋、御家庭向き其他一般金物類  
御注文品は多少に拘はらず特急に配達致  
します、尚初夏より初秋にかけては午後  
九時迄御客様を御待ち申します  
平電機株式會社 (平驛前)  
電話(特長)四二八番  
振替口座仙台三三三八

滋養 カルミン 明治製菓會社  
代理店 マツモトヤ

株式賣買中値  
電話に金融致し

銘柄	拂込	時價
磐城銀行	五〇、〇〇	五三、五〇
平銀行	五〇、〇〇	六八、〇〇
同新	一一、五〇	一七、五〇
磐城銀行	一一、五〇	一〇、五〇
磐城實業	五〇、〇〇	四二、〇〇
磐城實業	三五、〇〇	二八、〇〇
田村實業	一一、五〇	一一、五〇
四倉銀行	一七、五〇	一七、五〇
農工銀行	二〇、〇〇	二五、〇〇
同新	一五、〇〇	一八、五〇
同新	五〇、〇〇	五二、五〇
同新	一一、五〇	一四、五〇
七十七銀行	一一、五〇	九、〇〇
東部電力	五〇、〇〇	四八、〇〇
同新	一一、五〇	一一、五〇
只見川電	一一、五〇	七、五〇
植田水電	一一、五〇	一六、五〇
二本松電	一一、五〇	一四、五〇
磐城建物	一一、五〇	一六、〇〇
磐城製菓	一一、五〇	一三、五〇
磐城製菓	一一、五〇	一一、五〇
植田物産	一一、五〇	二六、五〇
平製氷	一一、五〇	一八、〇〇
好間軌道	一一、五〇	二五、〇〇
入山新	一一、五〇	一四、〇〇
小田炭礦	一一、五〇	七、〇〇
磐城炭礦	一一、五〇	四、〇〇
同新	一一、五〇	一八、〇〇
磐城セメン	一一、五〇	六〇、〇〇
同新	一一、五〇	四〇、〇〇
平運送	一一、五〇	六、五〇

平町田町 電話三三三番  
丸登株式店  
川添房二郎

### 平驛前に大アーチ

#### 競馬大會を協賛し 蹄鐵工組合が建設

今平町の人氣を沸かして居る競馬會は着々準備中であるが昨夜も七時から石城郡蹄鐵工組合が福壽軒にて役員會を開き馬匹獎勵の爲め此催しを

#### 大々的

に應援すべく決し先づ是れが協賛の意を表すべく平驛前に華々しい大アーチを建設する外會場たる磐中グラウンド沿道附近には紅白布巻きのアーチ形大宛を建てる由にて非常の

#### 意氣込

みであるか既に左記の如き疾走馬匹の申込あり  
△勿來町小徳寅之助處有日の出△同松本辰五郎處有若月外六頭△四倉町佐藤久平處有サツキ外三頭△豊間村鈴木一處有齊天△平町加藤七郎處有英△同加藤野甫處有ウツキ△疋間村羽田金藏處有春風

#### 申込み

ありたる場合にも地方馬は地方馬のみにて競走せしむる事となつて居るから是非此際奮つて申込みありたしといふ

#### 地方馬を歓迎

内務部長來平 長井本縣内務部長は七日午前七日三分平驛着にて來平住吉屋本店に投宿、八日は磐城炭礦を視察して平瀨から小名濱に出で九十の兩日は水産試験場を視察すると

#### 小兒を救助

溺死する 江名濱にて 石城郡江名町字北町雜貨商新妻長藏氏は去る三日午前八時半頃同町水夫傳三郎長男花坂勝一(五)が同海岸にて危く溺死せんとしたのを發見し直ちに海中に飛び込み救助したと

#### 大豆の降へウ

被害が甚大 入遠野村にて 石城郡入遠野村を中心に五日午後二時頃大雷雨と共に大豆の降雹があり農作物の被害甚大だが同村大字大平にて土砂崩壊し家屋二戸其下敷となつたが幸ひ負傷者はなかつた

#### 警中の 受験準備

習 廿八日から 既報警城中學同窓會主催第二回受験準備夏季講習會は

廿八日から來月廿一日迄毎日午前警城中學校にて開催する事となつたが會費は二圓五十錢で何人も雖も入會し得べく擔任講師は左記の如く警中の教諭及び同校出身の學生である

#### 石城各町村の豫算

一戸當りの最高は大浦村 石城郡内各町村に於ける大正十四年度の豫算は四日漸く決定したがこれに依れば總額百四十八萬五千四百六十四圓にして前年の百三十五萬三千四百四十六圓に比し十三萬二千八百圓の増加を示したが主なる費途は町村稅八十萬三千六百八十圓教育費六十二萬四千二百九十三圓であるが戸數割に於て最も高い一戸當りは大浦村の三十八圓二十六圓最低が植田町の十一圓四十五圓で平均は二十一圓四十六圓である

#### 泉村の小經營

農業は好成績 石城郡泉村の篤農志賀澤之助氏が囑託された農務省小經營農業は非常の好成績で去る五日縣農副會長鈴木國



家庭欄

#### 梅酸水の製造法

梅の實を砂糖漬にして、その汁を用ゐるのです。梅一斤に白砂糖二斤位の割で梅はあまり熱さぬのがよろし

#### 熱湯を浴びる

大火傷を負ふ 石城郡内郷村大字宮警城炭礦長屋居住職工井戸沼留吉四男は去る四日午後三時半頃同炭坑長屋共用蒸氣釜沸湯タンク附近にて遊んで居た際他の者が電柱の傍らに汲んで置いた熱湯を誤つて頭からかぶり大火傷を負つて死亡した

#### 落盤に 押し潰さる

坑内の慘事 當時石城郡湯本町字辰の口五十九番地高橋フヨ方居住入山炭坑后山古川始(三)は同炭坑第五坑坑内にて去る四日午後一時入坑高橋彌一郎と共に石炭を背負つて運び居る際俄かに落盤あり死亡した

#### 腕一本コロリ

漁船に挟まる 石城郡江名町字南町十七番地船主酒井米藏水夫有田金次郎(三)は去る二日十時頃同濱沖合にて南町七十八番地黒川清吉の漁船と激浪の爲め衝突し其際釣竿を取らんとして船の間に左手を挟まれ目下治療中

#### 巡查部長轉任

平署 巡查部長大槻新造氏は小野新町分署に榮轉し後任として同署巡查部長秋元勝藏氏來任する由尙ほ平署内勤巡查高橋英太氏は保安課に榮轉すると

#### 寄宿生の 移轉は明年

#### 警中の工事

縣立警城中學校寄宿舎第一期工事は既報の如く學校前なる廣場に校舎より三十五間を離れ校舎並に二階建寄宿舎炊事及食堂に通ずる廊下の建築も豫想外に進捗し八分通りの出來上りとなつて居るが更に第二期工事一萬餘圓を以て寄宿舎の袖形、圖書室、應接室、事務室、宿直室の四室に仕切れる平屋六十坪一棟と七間町降り口近くに十三坪の病室一棟十五坪の物置、各便所板塀など縣警署課にして設

計取急ぎ此の程完成したので近日中入札に附するが水道並に電燈取付け其の他の關係にて一二期工事を取急ぐ筈であるも落成は豫定より遅れ諸設備を完成し寄宿生徒の移轉するは明年早々となるらしいと

#### 水は尊い!

水道の砂洗ひ 夏の涼味は水によつて満される夏の水は最も尊い平町三萬町民の一日として欠くことの出來ぬ水道は今夏を前に水道部で水道路その他の修繕を始めたが数日前

#### 市内で 使用される

水量は約八千石乃至八千二百石位でこれが眞夏の七月末から八月にかけては一萬石を突破するので水道課員總出となつて眞夏の供水準備に今から忙殺されてゐる

#### 寝た儘た陀佛

石城郡内郷村大字御座字上宿五十二番地木賃宿長沼ヨシ方

#### 約五百名が 一年に増す

#### 平町の人口

平町に於ける本年一月一日より七月三日までの出生人員は本籍者二百九十八名寄留者百八十五名合計四百八十三名死亡者本籍者百四十五名寄留者八十五名合計二百三十名で差引二百五十三名の増加を示してゐるが出生は三四月が最も多く死亡年齢は出生當時の者並に五六十歳のもの多く而して前記比率を推移すると平町一ヶ年の人口増加は約五百名内外の多數に達することゝなる

#### 國勢調査 準備

統計主任協議 石城郡役所會議室に於て來る十一日第二回國勢調査に關し町村主任會を開催本縣より吉田統計主事來平する